令和３年度
学校だより
ＮＯ．１６
Ｒ４．３．２２

中道南小だより

南小っ子

かしこく　なかよく　げんきよく

甲府市立中道南小学校
（児童数７４名）
編集 校長 小林 和仁

令和3年度学校評価の結果の概要をお知らせします

本年度も、保護者の皆様には昨年末に実施した「学校評価」アンケートにご協力をいただき誠にありがとうございました。今年度は、これまで以上に学校教育目標の達成度をわかりやすくするため、評価項目（アンケート内容）の見直しを行い、また、保護者の皆様が回答しやすいように、携帯端末を利用し「Google Form（グーグルフォーム）」にて回答していただきました。併せて、教職員と児童にもアンケートを実施し、３者での比較ができるようにしました。この結果は、２月中旬に学校評議員の皆様にご検討いただき、忌憚のないご意見やご指導を賜りました。紙面の関係で、その概要をお知らせいたしますが、来年度に向けて改善をしていく必要があると思われる結果項目を挙げさせていただきました。その他の項目については、肯定的評価が高く、３者の意識の差が少ない結果となりました。

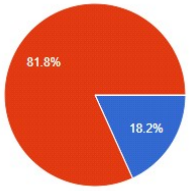
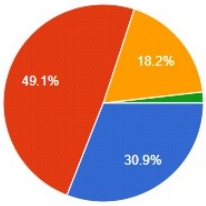
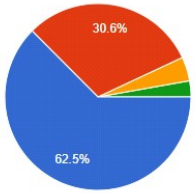
各項目の結果を表す円グラフについて
・円グラフのスタート(０パーセント)は、時計の短針でいう１２時ではなく３時からの時計回りとなります。
【 青色：「そう思う」(A)　赤色は：「ややそう思う」(B)　橙色：「あまり思わない」(C)　緑色：「思わない」(D) 】
・設問の表記　（教）：教職員　（保）：保護者　（児）：児童

１　「よく考え、学習する子ども」に関すること

●「確かな学力の育成」について

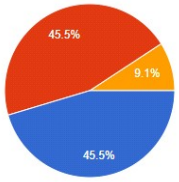
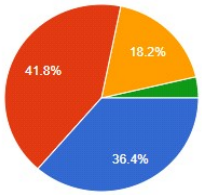
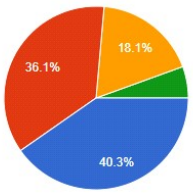
項目２：ＩＣＴの活用

（教）「タブレットやICTの効果的な活用と板書のバランスを考え、わかりやすい授業に努めている」
（保）「タブレットやICTを効果的に活用し、学習活動に生かしている」
（児）「タブレットやICTを使った授業はわかりやすくて楽しい」

教職員	保護者	児　童
		
A：18．2 B：81．8 C：　0．0 D：　0．0	A：30．9 B：49．1 C：18．2 D：　1．4	A：62．5 B：30．6 C：　4．2 D：　2．8

項目４：家庭学習の充実

（教）「宿題や家庭学習（南小がんばりノート）の内容や方法等、具体的に指導している」
（保）「子どもは家庭学習の習慣が身に付いている」　（児）「毎日学年の目標時間、家庭学習をしている」

教職員	保護者	児　童
		
A：45．5 B：45．5 C：　9．1 D：　0．0	A：36．4 B：41．8 C：18．2 D：　3．6	A：40．3 B：36．1 C：18．1 D：　5．6

「確かな学力の育成」についての改善点

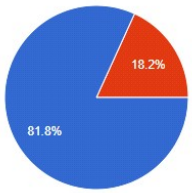
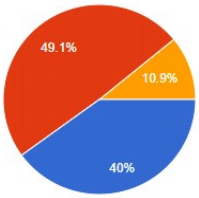
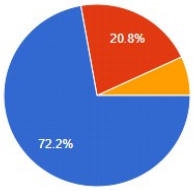
今後は、教師側として、ＩＣＴを活用した授業が積極的に行えるよう、研修に励むとともに、各教科の基礎・基本（話す・聞く・書く・読む）が定着するための授業改善や授業展開の工夫を行っていきたいと思います。中でも、項目２「ＩＣＴの活用」３「深い学びにつなぐ授業づくり」の少人数回答（４％～７％）については、各学年の実態を把握し、授業を行う中で課題を見付け、個々に丁寧な対応を行っていく必要があります。また、項目４「家庭学習の充実」に関わっては、学校として、学級指導を中心に、「家庭での学習の重要性や必要性」「南小がんばりノートの活用方法」などについて、再度児童に指導や助言を行い「定着する」取り組みを考えて実践していくとともに、保護者へは、学校での指導や助言、取り組みについての理解をしていただき、保護者との共通理解のもと、協力を得ながら児童の「家庭学習」の定着を高めていきたいと思います。

２　「心豊かに、助け合う子ども」に関すること

●「思い遣る心の育成」について

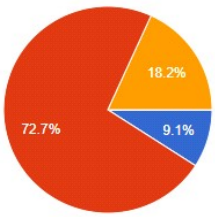
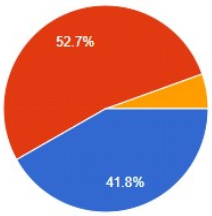
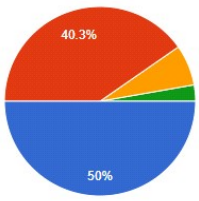
項目６：自己有用感や自己肯定感

（教）「個々の努力や成果を認め、励まし伸ばそうと努力している」
（保）「学校は子どもの自己肯定感を高める取り組みをしている」
（児）「先生はよい所をほめてくれる」

教職員	保護者	児　童
 A：81．8 B：18．2 C：　0．0 D：　0．0	 A：40．0 B：49．1 C：10．9 D：　0．0	 A：72．2 B：20．8 C：　6．9 D：　0．0

項目１０：あいさつの推進

（教）「児童は自ら進んで挨拶をしている」
（保）「子どもは挨拶の習慣が身に付いている」　（児）「周りの人に進んであいさつをしている」

教職員	保護者	児　童
 A：　9．1 B：72．7 C：18．2 D：　0．0	 A：41．8 B：52．7 C：　5．5 D：　0．0	 A：50．0 B：40．3 C：　6．9 D：　2．8

「思い遣る心の育成」についての改善点

今後は、まず、教師が日常的な学級指導において、児童の気持ちに寄り添い、発達段階を考慮しながら最後まで粘り強く取り組むことができる「具体的な目標」を教科や学級活動において設定させ、丁寧な指導を行っていきます。特に児童の「良さを認め」ながら、自己肯定感が高まるような支援や助言に配慮するとともに、道徳科の授業を通して、題材の工夫や授業展開を改善し、「心情」に訴えながら児童が少し

でも行動に表れるように取り組んでいきたいと思います。これからも児童の良いところを褒め、伸ばし、認めながら、困ったことや悩みなどに迅速に対応し、いじめの未然防止に努めていきたいと思います。

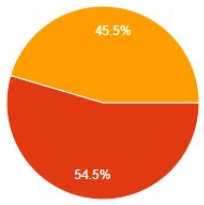
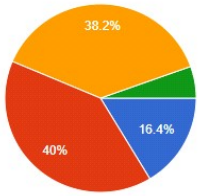
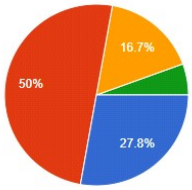
また、教師、保護者、児童の３者において、同等の回答であった「あいさつの推進」に関わっては、教師側として、「あいさつの推進」していくことへの共通理解と個人としての意識の向上、自らが模範となるような行動を心掛けるとともに、児童に対する「積極的なあいさつの実践」を行い、教職員全体で推進していきたいと思います。児童側として、児童会で実践している「あいさつ運動」の活動内容の検討や改善を行い、まずは、意識の向上に努めていきたいと思います。保護者に関わっては、学校での取り組み内容を学校・学級たより、ＰＴＡ総会、学年総会等で伝達し、協力のもとに、家庭でできる「あいさつ」実践に努めていただきたいと思います。

３　「運動に親しみ、健やかな子ども」に関すること

○「健やかな体の育成」について

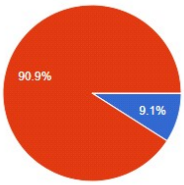
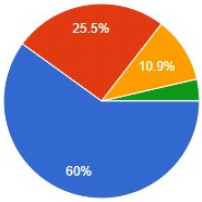
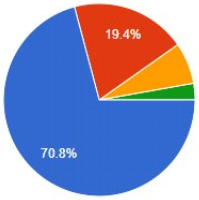
項目１２：基本的な生活習慣

（教）「児童は、「早寝･早起き（ゲーム等の約束）･歯磨き等の生活習慣が身に付いている」
（保）「子どもは、生活習慣が身に付いている」　（児）「望ましい生活習慣ができている」

教職員	保護者	児　童
		
A：　0.0 B：54.5 C：45.5 D：　0.0	A：16.4 B：40.0 C：　38.2 D：　5.5	A：27.8 B：50.0 C：16.7 D：　5.6

項目１４：体育や体育行事の充実と運動の日常化

（教）「個に応じた楽しく達成感のある体育授業や体力向上の取り組みを計画的に行っている」
（保）「子どもは体を動かすことが好きだと思う」　（児）「体育の授業や運動することは楽しい」

教職員	保護者	児　童
		
A：　9.1 B：90.9 C：　0.0 D：　0.0	A：60.0 B：25.5 C：10.9 D：　3.6	A：70.8 B：19.4 C：　6.9 D：　2.8

「健やかな体の育成」についての改善点

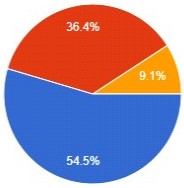
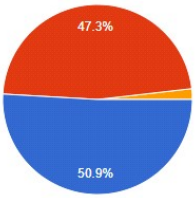
まずは、「基本的な生活習慣」について、児童の課題を明確にし、その課題に対して学級、保健、運動の各方面から指導を行い、様々な視点で改善に向けてアプローチしていきます。特に、学級での指導では、学級活動や道徳科の授業において、課題に沿った授業展開や実際に児童の行動にあらわれる題材を取り上げての授業などで実践していきます。また、保護者への情報提供や協力も、学校だよりや学級だより、さらには授業参観時の学年懇談会においての情報交換など、保護者と教師が連携し、家庭での児童の生活が向上できるように協力を求めていきたいと思います。

「運動や体育・体育行事」に関わっては、制限されている中でも体育委員会が主導で行っている体力づくりなどでも体育の授業以外で体を動かす活動の内容を検討し、活動の機会を増やしていくとともに、「運動が楽しい」「体を動かすことが健康によい」と児童が思えるような、取り組みを実践していきたいと思います。

4　「信頼される学校づくり　家庭や地域社会との連携」に関すること

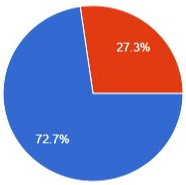
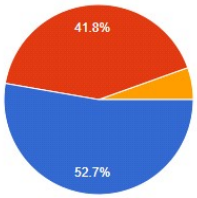
項目１７：特色ある教育課程　地域資源を生かす実践

（教）「学習効果を高めるために、地域の素材や人材を活用した学習活動を展開している」
（保）「学習効果を高めるために、地域の素材や人材を活用した学習活動を有効活用している」

教職員	保護者
 A：54.5 B：36.4 C：9.1 D：0.0	 A：50.9 B：47.3 C：1.8 D：0.0

項目１８：保護者からの信頼

（教）「保護者や地域の方々が、連絡・相談したことに対して誠意を持って対応し、相談しやすい関係をつくっている」
（保）「学校は保護者や地域と連携を図り、相談しやすい関係をつくっている」

教職員	保護者
 A：72.7 B：27.3 C：0.0 D：0.0	 A：52.7 B：41.8 C：5.5 D：0.0

「信頼される学校づくり　家庭や地域社会との連携」についての改善点

今後も、感染症拡大防止に努めながら、地域との連携学習においては、教育課程を見直し、各教科の位置づけをきちんと行う中で、児童の実態にあった学習活動が展開できるように「中道南小の特徴を生かした教育課程」の編成を行っていきたいと思います。また、地域人材の活用や同窓会の協力のもと、学校での教育活動の様子を発信していきながら、地域に開かれた学校であり続けるよう、教職員と共通理解のもとで学校の運営を行っていきたいと思います。

学校評議員の皆様からのご意見

○コロナ禍の影響で色々な学習や行事が思うようにできず、限られた学校環境の中で十分な学校生活の場を提供できないことに対して、先生方が納得できないところもあるが、保護者や児童が最上位評価が多いという結果は、先生方の日頃の苦労と努力を十分に理解しているからだと思う。全職員で児童の教育に後尽力されていることに敬意を表したい。
○「学びに向かう力」の評価は、子どもたちが満足しており、指導の成果が大きく表れている。また、「決まりのこと」「学校での様子」など、保護者と子どもの評価割合がほぼ同じ項目もあり、親子のコミュニケーションが深まっていると感じた。
○一人一人にきめ細かい指導ができるという小さい学校のプラス面を大いに活用していただき、児童のためにこれからもよき学校生活の場を与えていただきたい。
○一番気になったのは、コロナ禍での運動不足です。分散登校による休日でインターネットやＴＶの使用がかなり増えてしまっている上に、今後、リモート学習への移行が進んでいくにつれ、学校で行う授業（体育など）や勉強以外の様々な活動の充実を図っていただきたい。